

平成29年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時・場所

平成 29 年 7 月 3 日（月曜日）午後 4 時から午後 5 時 30 分まで
東京都健康安全研究センター 本館 6 階会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：事例の検討について

平成 28 年 12 月 1 日から平成 29 年 5 月 31 日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した事例のうち※2 事例（顔面等腫脹、発熱、吐き気、高血圧、頻脈等症状 1 例、皮膚症状 1 例）について検討を行った。

※5 月 31 日に都医師会から報告された事例は内容確認が間に合わなかったため次回検討予定。

2 事例の検討の結果、積極的に情報収集するよう努めるものとされた 1 事例（顔面等腫脹、発熱、吐き気、高血圧、頻脈等）について、都医師会、都薬剤師会を通じて各会員へ留意すべき関連情報も含めて情報を提供するとともに、類似事例の収集への協力を依頼した。

なお、1 事例（皮膚症状 1 例）については、症状と製品・成分との因果関係は特定できないが、事例として蓄積していくという結論になった。

今回の事例について事前に精査した結果、緊急調査等が必要な事例は無かった。

(2) 報告：「健康食品」に関する健康被害事例データベースの解析について

次の事項について報告した。

- 平成 27 年度第 2 回食品安全情報評価委員会において「健康食品による健康被害発生の傾向があると思うので、製品との因果関係にこだわらず、概略的に都民に情報発信していくべき」との指摘を受け、今年度の事業として、利用者の属性に応じた健康被害の発生傾向を予測し、被害の拡大防止を図るため健康被害事例データベース解析事業を行うこととしたこと。

(3) 報告：平成28年度第3回食品安全情報評価委員会での報告事項について

次の事項について報告した。

- ・昨年度第3回食品安全情報評価委員会において、昨年度第2回当専門委員会での検討結果（積極的に情報収集に努めるものとされた3事例（下血1例、皮膚症状1例、肝機能障害・検査値異常1例）について、都医師会、都薬剤師会を通じて留意すべき関連情報も含めて情報提供するとともに、類似事例への収集への協力を依頼したこと）を報告した旨。

(4) 報告：収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から平成29年5月31日までに収集した351事例の集計結果について報告した。

なお、製品と症状との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

ア 収集事例の内訳

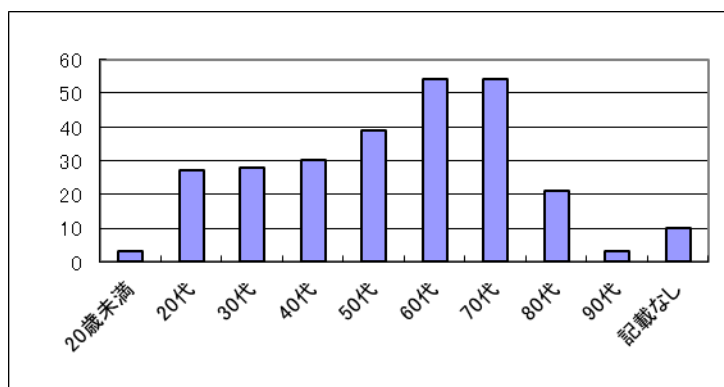
医師会	157人	延べ	228製品
薬剤師会	112人	延べ	123製品
計	269人	延べ	351製品

イ 年齢別人数分布

年齢	患者数	利用目的の主な内訳 (注・その他疾患予防とは、特記した疾患予防以外の疾患予防を目的としたもの)
20歳未満	3	栄養補給2 ダイエット・美容1
20代	27	ダイエット・美容15 バストアップ、精神科疾患予防各2
30代	28	ダイエット・美容16 栄養補給5 健康維持、その他疾患予防各2
40代	30	ダイエット・美容10 栄養補給、健康維持、泌尿器疾患予防各2
50代	39	栄養補給9 ダイエット・美容、腰痛・関節痛各7 健康維持6 免疫力向上、精神科疾患予防、肝機能改善、その他疾患予防各2
60代	54	腰痛・関節痛15 栄養補給10 健康維持7 泌尿器疾患予防、血液をさらさらにする各3 血糖値改善、眼科疾患予防、血圧改善各2
70代	55	腰痛・関節痛15 栄養補給13 健康維持7 その他疾患予防5 血糖値改善、血液をさらさらにする各2
80代	21	腰痛・関節痛8 栄養補給6 ダイエット・美容3 血糖値改善、眼科疾患予防、血液をさらさらにする各2
90代	3	腰痛・関節痛1 (不明2)
記載なし	9	ダイエット・美容2 便秘、血糖値改善各1
合計	269	ダイエット・美容58 栄養補給49 腰痛・関節痛47

ダイエット・美容は20～40代、腰痛・関節痛は60代以上が多い。

人数 (N=269)



年齢別人数分布によると、50～70代が多い。

ウ 性別割合

性別割合によると、女性（200人、74%）は、男性（65人、24%）の3倍以上であった。（4名は記載なし）

エ 基礎疾患の有無

基礎疾患については、有（152人、57%）、無（78人、29%）、記載なし（39人、14%）であった。

オ 症状・異常所見等

症状・異常所見等	患者数
発疹・発赤・掻痒	98
肝機能障害、肝機能検査値異常	40
胃痛・胃部不快感・吐き気	31
下痢・軟便	23
出血、出血傾向	10
頭痛・吐気	9
めまい・ふらつき	7
便秘	6
血圧上昇	6
倦怠感	6
尿酸値の上昇	4
血清カリウム上昇	4
味覚異常	3
意識消失	2
その他	64 ¹⁾

症状・異常所見等で最も多かったものは「発疹・発赤・掻痒」の98名で、全体の31.3%を占めている。次いで「肝機能障害・肝機能検査値異常」が40名（13%）、「胃痛・胃部不快感・吐き気」が31名（10%）であった。

なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

平成 29 年 7 月現在

	氏 名	所 属
○	梅垣 敬三	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
	小林 弘幸	公益社団法人 東京都医師会 理事
	志村二三夫	十文字学園女子大学学長、 大学院人間生活学研究科長・教授
	松本 有右	公益社団法人 東京都薬剤師会 常務理事
	水谷 太郎	筑西市 医療監
	山口 正雄	帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学 教授
	山口 隆司	一般社団法人食品産業センター 振興部・海外室 次長
	山田 浩	静岡県立大学薬学部 教授 医薬品情報解析学分野

(○) 座長